様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月　 ７ 日現在

機関番号：３４４１５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１７２９７

研究課題名（和文）身体への気づきが対人場面での行動ならびに意思決定に及ぼす影響

研究課題名（英文）The effect of body awareness on behavior and decision making in interpersonal situations

研究代表者
増井　啓太（Masui, Keita）

追手門学院大学・心理学部・講師

研究者番号：００７７４３３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の結果、身体への気づきの敏感さや身体への気づきと関わる外的環境要因がDark Triad（マキャベリアニズム、サイコパシー傾向、自己愛性傾向を総称したパーソナリティ）やサディズム傾向といった反社会的なパーソナリティの水準の高い人たちの社会的に不適応な反応を抑制することが明らかとなった。加えて、それらの要因が反社会的パーソナリティの水準の高い人たちの向社会的な反応を高めることも示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義および社会的意義は以下のとおりである。
まず、反社会的なパーソナリティ傾向の高い人たちの社会的に不適応な反応を抑制する要因を明らかにした点である。加えて、そのような人たちの向社会性を高める可能性を示したことも本研究の意義のある成果である。一般的に、反社会的なパーソナリティ傾向の高い人たちは攻撃性が高く、対人関係にトラブルを抱えやすいとされる。しかしながら、そのような人たちの不適応な反応を抑制する要因についてはほとんど明らかになっていない。本研究の成果は、対人トラブルの解消、ひいては安心・安全社会の確立に向けて重要であると思われる。

研究成果の概要（英文）：This study showed that body awareness sensitivities and external environmental factors associated with body awareness inhibited socially maladjusted response of individuals with high antisocial personality traits such as Dark Triad (the collective personality of Machiavellianism, psychopathy, and narcissism) and sadism. In addition, it was suggested that those factors increased the prosocial responses of those with high levels of antisocial personality traits.

研究分野：社会心理学、犯罪心理学

キーワード：身体への気づき　Dark Triad　サイコパシー　マキャベリアニズム　自己愛性傾向　サディズム傾向　攻撃性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「社会的動物」であるヒトは，自分一人だけで生きていくことは決してできない。そのため，われわれの社会において，他者と良好な相互作用を築くことは生存のうえで必要不可欠である。しかし，良好な対人関係の構築，維持に困難を示し，他人を傷つけることや犯罪などの反社会的行為を選択することに罪悪感を抱かない人たちもいる。本研究では，そのような人たちが共通して持つ個人特性として Dark Tetrad に着目した。

Dark Tetrad とは，サイコパシー，マキャベリアニズム，自己愛性傾向，サディズム傾向を総称したパーソナリティである（Paulhus & Williams, 2002）。Dark Tetrad の特徴として，共感性が欠如し，他者を操作したり利己的に振る舞うことが挙げられる。そのような特徴から，Dark Tetrad の高い人たちは対人場面でトラブルを起こしやすいことや中長期的な対人関係の維持に困難を示すと言われている（Paulhus & Williams, 2002）。その一方で，高 Dark Tetrad 傾向者はいつ・いかなる場合においても非互恵的な対人方略を選択するわけではなく，状況によっては互恵的な方略を選択することが可能であることも示唆されている。例えば，Masui et al. (2012) は，家族からのサポートが充分な場合，高 Dark Tetrad 傾向者の攻撃的な特徴の発現は抑制されることを報告した。また，幼少期の社会経済的地位の高さは高 Dark Tetrad 傾向者の敵意的な対人行動を抑制することも明らかとなっている（Masui & Ura, 2016）。しかし，これらの環境要因を変えることは容易ではない。また，高 Dark Tetrad 傾向者本人に改善に向けたアプローチを行うことができないため，その有効性は限定的であった。そこで本研究では，高 Dark Tetrad 傾向者に直接作用し，彼ら・彼女らの利己的で攻撃的な対人方略を抑制するための要因として，身体内部への気づきの程度に着目した。そして，身体への気づきが高 Dark Tetrad 傾向者の対人場面での行動や意思決定に及ぼす影響過程を検討した。

２．研究の目的

本研究の目的は以下のとおりであった。

まず，身体への気づきと関連する環境要因として外的気温に着目し，外的気温の程度が高 Dark Tetrad 傾向者の攻撃性や利己的な意思決定に及ぼす影響を検討した。

つぎに，身体への気づきの敏感さが高 Dark Tetrad 傾向者の攻撃行動に及ぼす影響を検討した。なお，本研究では攻撃行動の指標としてネット荒らしに着目した。ネット荒らしとは，「インターネット上で他人を意図的に挑発し，争いや感情的な反応，コミュニケーションの分断を引き起こす欺瞞的で破壊的な行為」と定義されている（Buckels, Trapnell, & Paulhus, 2014）。ネット荒らしはオンライン上で行われる攻撃行動の一種であるが，被害者の心身に及ぼす深刻な影響は，対面での攻撃行動と同程度であるとされており，近年深刻な問題行動の 1 つとなっている。

３．研究の方法

全ての研究はオンライン調査の登録モニターを対象に実施された。なお，本研究で着目した Dark Tetrad の測定には，日本語版 Dark Triad Dirty Dozen（DTDD-J; 田村他, 2013）とは日本語版 Varieties of Sadistic Tendencies （VAST-J; 下司・小塩，2016）を用いた。

４．研究成果

本研究の成果は以下のとおりであった。

まず，外的気温の程度が高 Dark Tetrad 傾向者の攻撃性に及ぼす影響を検討した。オンライン調査の登録モニターを対象とした質問紙調査を実施した。参加者には「過去 5 年間ほどの間で対象者が最も怒りを覚えた出来事と相手」を想起させ，その相手に対して殴ったり蹴ったりしたいと思ったか（身体的暴力意図），威圧的態度をとったり汚い言葉でののしりたいと思ったか（心理言語的暴力意図）を尋ね，これらの回答を攻撃性の指標として用いた。併せて，Dark Tetrad を測定する項目と居住している都道府県を回答させた。なお，住んでいる県の年平均気温を法務省統計局の統計データより算出した。分析の結果，Dark Tetrad 傾向の高い人ほど身体的暴力意図と心理言語的暴力意図の程度が高かった。加えて，暴力意図へ及ぼす Dark Tetrad，（とりわけ，サイコパシーとマキャベリアニズム）と気温の有意な交互作用が見出された。下位検定の結果，サイコパシーやマキャベリアニズムの水準が高く，かつ気温の低い地域に住んでいる人たちは，その他の人たちよりも身体的暴力意図ならびに心理言語的暴力意図が高かった。

つぎに，外的気温の程度が高 Dark Tetrad 傾向者の利他的な意思決定に及ぼす影響を検討した（Masui & Ura, 2017）。利他的な意思決定の指標として，他者が様々な困難に陥っている場面に遭遇したという架空のシナリオを読ませ，その他者を助けるかどうかという援助意図を測定した。その他に Dark Tetrad を測定する項目と居住している都道府県を尋ねた。分析の結果，平均気温の高い地域に住んでいる人のほうが，低い地域に住んでいる人よりも援助意図の程度

が高かった。また，Dark Tetrad の高い人は，低い人よりも援助意図の程度が低かった。加えて，援助意図へ及ぼす Dark Tetrad，（とりわけ，サイコパシーとマキャベリアニズム）と平均気温の有意な交互作用効果が確認された。下位検定の結果，サイコパシーやマキャベリアニズムの水準が高く，かつ気温の低い地域に住んでいる人は，その他の人たちよりも援助意図が有意に低かった（図 1 参照）。

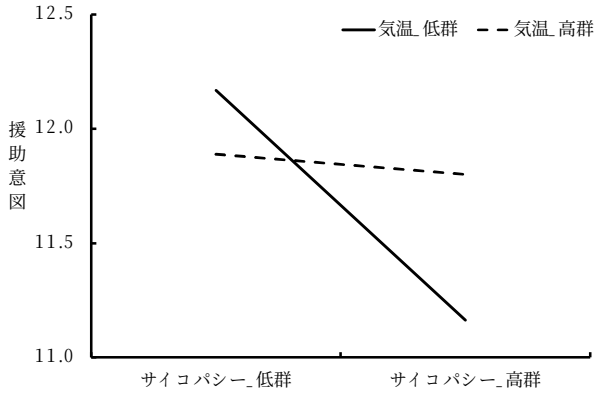

図 1　援助意図に与えるサイコパシーと気温の交互作用効果

本研究では，近年深刻な社会問題となっている攻撃行動としてネット荒らしに着目し，ネット荒らしを定量的に測定するための尺度（the Global Assessment of Internet Trolling-Revised）の日本語版を作成した（増井・田村・マーチ, 2019）。原版の作者に翻訳の許可を取った後，日本語へ翻訳した。その後，翻訳した項目のバックトランスレーションを行い，原版の内容と一致しているかどうかの確認を求めた。確認が取れた後，日本語版ネット荒らし尺度の信頼性と妥当性を検討した。535 人を対象にオンライン調査を実施した結果，日本語版ネット荒らし尺度は高い信頼性と妥当性を持つ尺度であることが確認された。ネット荒らしと Dark Tetrad について，相関係数を算出したところ，Dark Tetrad のいずれの特性もネット荒らしと正の有意な関連を示した（増井他, 2019）。

そして，身体への気づきの敏感さが Dark Tetrad とネット荒らしとの関係性に及ぼす影響について検討した（増井, 2019）。インターネット調査会社の登録モニター280 人を対象に，身体への気づきの敏感さを測定する尺度（日本語版 Multidimensional Assessment of Interoceptive Awareness），Dark Tetrad，ネット荒らし尺度の項目へ回答を求めた。分析の結果，Dark Tetrad の高い人ほどネットを荒らしやすいことが明らかとなった。さらに，ネット荒らしへ及ぼすサディズム傾向と身体への気づきの敏感さの有意な交互作用効果が確認された。下位検定の結果，サディズム傾向の水準が高く，かつ身体への気づきの低い人は，その他の人たちよりもネット荒らしを行いやすいことが明らかとなった（図 2 参照）。

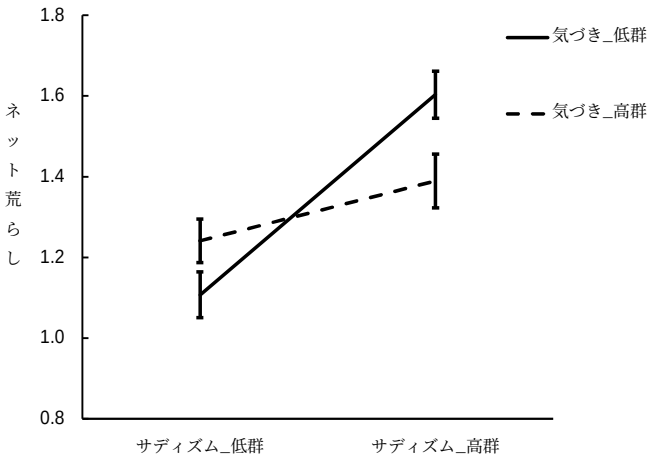

図 2　ネット荒らしに与えるサディズム傾向と身体への気づきの交互作用効果

本研究の結果，身体への気づきに関わる環境要因や身体への気づきの敏感さは Dark Tetrad という反社会的なパーソナリティの攻撃的な特徴や利他的な特徴の発現に関与することが明らかとなった。とりわけ，本研究の結果は，身体への気づきの程度を高めることが反社会的なパーソナリティの水準の高い人たちの社会的に不適応な反応を抑制することにつながる可能性を示

唆する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 増井啓太・田村紋女・マーチ・エヴィータ	４．巻 89
２．論文標題 日本語版ネット荒らし尺度の作成	５．発行年 2018年
３．雑誌名 心理学研究	６．最初と最後の頁 602-610
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4992/jjpsy.89.17229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 増井啓太・浦 光博	４．巻 61
２．論文標題 「ダークな」人たちの適応戦略	５．発行年 2018年
３．雑誌名 心理学評論	６．最初と最後の頁 330-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I000000012450-00	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 増井 啓太、下司 忠大、澤田 匡人、小塩 真司	４．巻 88
２．論文標題 日本語版強欲傾向尺度の作成	５．発行年 2018年
３．雑誌名 心理学研究	６．最初と最後の頁 566～573
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4992/jjpsy.88.16240	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Keita Masui
２．発表標題 Social isolation facilitates internet trolling in individuals with high psychological entitlement.
３．学会等名 The 23rd World Meeting of the International Society for Research on Aggression（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 増井啓太・浦 光博
２．発表標題 毒をもって毒を制す―「ダークな」人たちがリーダーに選ばれる時―
３．学会等名 日本社会心理学会第59回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 増井啓太
２．発表標題 誰が、いつインターネットを荒らすのか？－ネット荒らしに及ぼすDark Tetrad傾向と社会的孤立の影響－
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 増井啓太
２．発表標題 サディズム傾向とネット荒らしとの関係性に及ぼす正当化の影響
３．学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 増井啓太
２．発表標題 ネット荒らしに及ぼす主観的社会経済的地位と社会的孤立の影響
３．学会等名 日本犯罪心理学会第56回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 増井啓太・下司忠大・澤田匡人・小塩真司
２．発表標題 日本語版Dispositional Greed Scaleの信頼性、妥当性の検討
３．学会等名 第81回日本心理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 増井啓太
２．発表標題 Dark Triadと援助行動
３．学会等名 第26回日本パーソナリティ心理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 増井啓太
２．発表標題 Dark Triadとセルフコンパッションとの関連－Effortful Controlの媒介効果の検討－
３．学会等名 第26回日本パーソナリティ心理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Keita Masui Mitsuhiro Ura
２．発表標題 Warm climates promote helping behaviors in individuals with dark personalities
３．学会等名 The Conference of the International Society for the Study of Individual Differences 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 増井啓太	４．発行年 2019年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 77-115
３．書名 情動と犯罪	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考